

## 学校再編・保幼小中一貫教育に関する東地区住民説明会 質疑応答要旨(令和2年9月27日午前)

※質問・回答とも要旨を記載しております。  
※本説明会の趣旨に関係するもののみ掲載しております。

項目	No.	種類	質問内容	回答内容
跡地利用	601	質問	小学校の跡地利用が決まっているのであれば教えていただきたい。	跡地利用については多くの希望があるが、地域活性化できるような地域のコミュニティセンターとして活用したいと考えています。それらを基本にし、農業や加工などの団体に使っていただきたいと思っています。お知らせできる時期が来たら、公募をしたいと考えています。ただ、東地区の学校は市街化調整区域の学校なので、転用する場合は用途変更が必要になり、その調整も必要になります。決定すれば具体的に進めていけるので、早く決定したいと考えています。
	602	意見	木代地区の住民は東地区に学校が残ることになり喜んでいて、東地区に学校を残すことが、東地区の未来が明るくなることになると期待している。木代地区の住民の気持ちを汲み取って、この計画を早く実現してほしい。	自治会の方々の積極的なご意見や前向きなご意見をたくさんいただいています。地域の子どもたちと賑わいのあるまちと魅力のある学校をつくっていく決意です。本当の教育は中身が大切になるので、専門家の意見を聞きながらカリキュラムを作っていきたいと考えています。
学校再編	603	要望	今の人数規模でも、東地区は人間関係の固着化からギスギスしていると聞く。保護者は、より多くの出会いを願っている。東地区は、農村の方と、希望が丘の住民で組織されていて、人数比で言えば、希望が丘の子どもたちが多い。一部の声の大きな方々に惑わされず、真によりよい教育環境を整えていただきたい。	東地区の現状は理解しています。東西それぞれのよさを生かした教育活動を展開していきます。そのための手段として保幼小中一貫教育を推進し、よりよい教育環境を整えていきます。
	604	要望	町財政の説明の後、なぜ2小2中になるのか疑問。財政面からも1小1中にし、GIGAスクール整備等、一極集中で教育環境を整えてほしい。	様々な考え方や意見があると思いますが、8月12日の総合教育会議において、2小2中の方向性が決定されました。この決定をもとによりよい義務教育学校の設置を進めていきます。
コミュニティ・スクール	605	意見	東地区に学校があるというのは、最低限のまちづくりだと思っているので、学校がないという選択肢はあり得ないと思っている。ただ、そこがスタートで、そこから何をしていくかが重要だと思っている。コミュニティ・スクールのスタートはR4年からであるか。できることからどんどん進めていきたい。一緒にやっていきたい。また、外部に発信していくことも必要だと思う。いいことはどんどん外に発信していく必要がある。	コミュニティ・スクールはR4年度に開始します。準備会を今年度の10月から発足させ、大学の先生にも顧問として入ってもらい進めていきます。外部への発信については「豊能の風」を通じて保護者の方々にお知らせしています。また、HPIにも掲載し住民にも発信しています。ただ、関心がないと町外の方はHPをご覧にならないので、今後発信する方法を検討していきます。

支援学級	606	質問	今後、支援学級はどのようになるのか。	各学校に支援学級が設置されており、障がいの種別や程度によって、個別の教育課程を編成し、個に応じた支援を行っています。今後も、これまでの取組みを引き継ぎ、丁寧な支援を行っていきます。
スケジュール	607	要望	学校再編のスケジュールについて、少しでも早く進めていただきたい。R4年からR8年までの4年間は子どもにとっては混乱する。R8年義務教育学校開校とあるが、保護者としては、1年でも早く進めていただきたい。	義務教育学校開校はR8年度になりますが、R4年度から教科担任制や乗り入れ授業等を検討しており、保幼小中一貫教育はできる所から進めていきます。
地域とともにある学校	608	意見	ここまで計画を進めていただいたことに感謝します。学校再編の一面だけでなく、町づくりと合わせて今後の豊能町を応援しています。	今後、学校運営協議会制度を導入し、「地域とともにある学校づくり」に取り組めます。
	609	要望	東地区に学校を残すことをめざしている木代住民の気持ちをぜひくみ取っていただき、地域とともにある学校づくりをお願いします。	
費用	610	質問	一貫校にしなかった場合とした場合との費用面の比較を教えてください。	一貫校にしなかった場合とした場合との費用面の比較は現在行っておりません。 一貫校にしなかった場合は、現状の老朽化した施設を改修して使い続けることとなります。 現在町内には、小学校は4校、中学校は2校の計6校ありますが、どの学校も建設してから20年以上経過している校舎や体育館等の施設が大半であり、老朽化や経年劣化などにより大規模な改修をする必要があります。 現在の6校を全て大規模改修する費用と、東西にそれぞれ一貫校2校を再編改修する費用を比較すれば、東西に一貫校2校を再編改修する費用の方が、大幅に財政負担が少なくなると考えています。
複式学級	611	質問	どういった条件で複式学級になるのか教えてください。	小学校では2個学年で16人(1年生を含む場合は8人)、中学校では2個学年で8人を下回る場合、複式学級として編成することができます。
保育	612	要望	病児保育、子ども育成室(学童)、延長保育等のサービスを強化してほしい。	病児保育は、現在、当町では実施していませんが、施設面や人員面から実施に予定はございません。子ども育成室(学童)、延長保育等のサービスの強化についてですが、学童保育の午後7時以降の時間延長や保育所の延長保育の時間延長につきましては、学童保育支援員や保育士の人員確保が容易でないことから現状のとおりとなります。

保幼小中一貫教育	613	質問	保幼小中一貫教育のデメリットとその対策について教えてほしい。良い面だけでなく、悪い面にもきちんと向き合いたい。	<p>保幼小中一貫教育を進めていくうえでの課題は</p> <p>①教職員の負担感・多忙化の解消 ②教職員間での小中一貫教育における意思疎通 ③児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮などがあげられます。</p> <p>①については、義務教育学校開校時は多少の負担は出てくると思います。ただ、これまでは小学校については、1人の先生で1クラスを見ていましたが、教科担任制の導入により、たくさんの先生方が子どもたちに関わることとなります。それにより、多くの目で子どもを見ることができ、いじめ等の早期発見、早期解消につながると考えます。また、教科担任が経過ウ準備することで授業の質が高まり、子どもたちの落ち着きや学習意欲が向上し、長い目で見れば、負担軽減につながると考えています。</p> <p>②については、小中合同の研修を開催し、共通認識を図れるようにします。</p> <p>③については、他校種・異学年・東西間の交流や、「とよの未来科」を創設し、地域の自然や人との出会いを取り入れたような人との関わりを大切にしたい教育活動を検討しています。</p>
保幼小中一貫教育	614	質問	他の一貫教育を行っている学校の前例を知りたい。(良い例。悪い例。)	<p>京都市の東山開晴館や京都大原学院、姫路市の白鷺小中学校など、いずれも最初は大変だったと聞いています。ただ、小中学校の教職員が合同で教科研究や行事を行っていくことで、意識が統一されたそうです。そして、子どもたちの学力が大幅に向上し、不登校児童生徒数も大きく減少したという成果も出ています。</p>
その他	615	要望	資料について、数値データ等の根拠を示してほしい。また、比較資料やパターンA,B,Cなどが必要だと思う。	今後、資料作成する際はそのような視点を意識します。
	616	要望	豊能らしさ(里山・都会の田舎)を生かした教育を行ってほしい。他の地域の先生方から、豊能町の学力は高いという話を聞いた。先生方、本当にありがとうございました。	「とよの未来科」で実施を検討していきます。「とよの未来科」とは豊能町について学び、その学びで得た経験を活かし、グローバルな視点で「豊能町の未来」のために自分たちでできることを考える、子どもたちが主体的に学習に取り組むことをめざしたものです。地域の教育資源を活用して実施します。